

令和5年7月3日(月)
職員朝礼・昼礼資料

令和5年度 第1回学校関係者評価委員会 報告

- 1 日時 令和5年6月28日(水) 14:00～15:00
- 2 場所 本校視聴覚室
- 3 出席者 学校関係者評価委員7名, 本校職員19名

4 内容

- (1) 開会のことば
- (2) 校長あいさつ及び委嘱状交付
- (3) 委員紹介
- (4) 本年度学校経営方針
- (5) 学校概況説明と本年度の目標(各課程10分ずつ)
- (6) 学校評価アンケート結果報告(通信制 昨年度の生徒分)
- (7) 質疑・意見交換

<質問>

玉利委員(谷山中学校長)

中学校では情緒障害や発達障害のある生徒が増えており, 進路指導にも苦慮している。療育手帳等どの程度の生徒がいるのか。

→ 野崎教頭:具体的に人数を調べてはいないが割合は高く感じる。

特に数学・英語で見られるが, 強化の限界である。

校長:保護者と情報共有しながら, 個人のニーズに合わせ学習支援している。

<意見>

ア 関山委員(鹿児島大学准教授)

「すべての生徒は何か悩んでいる」というスタンスは素晴らしい。発達支持的生徒指導から現在の活動を再定義するともっと質が高まるのではないのでしょうか。

イ 今吉委員(鹿児島南署スクールポーター)

学校は生徒に寄り添い解決しても, 保護者が立ち入り, 問題が複雑化する事がある。保護者の対策が大変になっており, お互い連携を取りながら支援していきたい。

ウ 玉利委員

生徒指導提要在改訂となり、指導から支援になり、生徒指導・進路指導が生徒支援・進路支援となることで関わり方が変わってくるのではないかなと思う。

開陽高校の学校経営にも取り入れられており、これからの活動や成果があれば教えて欲しい。

エ 福德委員(西谷山コミュニティ協議会長)

地域との関わりを大事にしている。開陽高校生に挨拶をすると元気に返してくれる。

人間同士の繋がりが薄くなってきていると感じる。人間味のある指導をお願いしたい。

オ 本村委員(全日制PTA会長)

SNS詐欺(PayPay)等については親として心配であるが、親がスマホを与えているので、親の責任も感じている。

カ 新田委員(定時制振興会長)

「すべての生徒は何か悩んでいる」という考えは素晴らしい。それぞれに何か理由があって開陽高校に来ている。卒業したら大人になるが、生徒に声かけをこまめにしてもらいながら、独り立ちができるよう指導をお願いしたい。

キ 福永委員(通信制振興会長)

特別支援が必要な生徒や虐待も増えていると思う。子どもたちを取り巻く環境が変わってきており、決して好ましい状況でないこともある。その中で、開陽高校の存在意義は高く、今後も活動・支援をお願いしたい。

(8) 閉会の言葉